

福島第一 原子炉建屋上部における空气中放射性物質の核種分析結果<1/2>

参考値

(データ集約：12/7)

採取場所	3号機原子炉建屋上部① (原子炉上北東側(下方向))		3号機原子炉建屋上部② (原子炉上北東側(横方向))		3号機原子炉建屋上部③ (原子炉上北東側(下方向))		②炉規則告示濃度限度 (Bq/cm ³) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
試料採取日時刻	平成23年12月5日 10時35分～11時05分		平成23年12月5日 10時35分～11時05分		平成23年12月5日 11時35分～12時05分		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	1.4E-03	0.70	5.4E-02	27	3.8E-04	0.19	2E-03
Cs-137 (約30年)	1.7E-03	0.57	6.6E-02	22	4.9E-04	0.16	3E-03

※ 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

○.○E-○とは、○.○×10^{-○}と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約3E-5Bq/cm³。

粒子状のI-131が約9E-5Bq/cm³。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一 原子炉建屋上部における空气中放射性物質の核種分析結果<2/2>

参考値

(データ集約：12/7)

採取場所	3号機原子炉建屋上部④ (原子炉上北東側(横方向))						②炉規則告示濃度限度 (Bq/cm ³) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成23年12月5日 11時35分～12時05分						
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-					1E-03
Cs-134 (約2年)	2.7E-04	0.14					2E-03
Cs-137 (約30年)	3.5E-04	0.12					3E-03

※ 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

○.○E-○とは、○.○×10^{-○}と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約1E-5Bq/cm³。

粒子状のI-131が約7E-6Bq/cm³。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一 原子炉建屋上部における空气中放射性物質の核種分析結果

参考値

(データ集約：12/7)

採取場所	2号機原子炉建屋上部 (ﾌﾞﾛｰｱｳﾄﾊﾞﾙ中央西向)		2号機原子炉建屋上部 (ﾌﾞﾛｰｱｳﾄﾊﾞﾙ中央北向)		2号機原子炉建屋上部 (ﾌﾞﾛｰｱｳﾄﾊﾞﾙ下部)		炉規則告示濃度限度 (Bq/cm ³) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
	試料採取日時刻	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	
試料採取日時刻	平成23年12月6日 8時25分～10時25分		平成23年12月6日 8時25分～10時25分		平成23年12月6日 装置不具合により欠測		
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	-	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	5.4E-06	0.00	ND	-	-	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	8.2E-06	0.00	ND	-	-	-	3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

． E- とは、 ． × 1 0⁻ と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を 1 と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約3E-6Bq/cm³、Cs-134が約8E-6Bq/cm³、Cs-137が約9E-6Bq/cm³。

粒子状のI-131が約2E-6Bq/cm³、Cs-134が約5E-6Bq/cm³、Cs-137が約5E-6Bq/cm³。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。